



小児総合医療センター

〒183-8561

東京都府中市武蔵台二丁目8番29号

電話 042-300-5111 (代表)

病院の概要

臨床、教育、研究面で国内外に発信することを目標にする病床規模日本一（561床）の小児専門病院です。総合診療科の他に、救命救急科や心療内科、内科系専門診療各科、新生児科、集中治療科、児童・思春期精神科（家族支援部門を含む）、および外科系専門診療各科が揃っており、幅広い患者さんを診ている病院です。その中で総合診療科は、救命救急科と協力して病院の窓口機能を担当しています。このような特徴から、一般小児科から、内科系専門診療科まで、幅広い研修が出来ます。また、シニアレジデントの教育は病院の根幹のテーマです。屋根瓦方式の“教えることで自ら学ぶ”ことを中心とした日々の教育とともに、専門診療科スタッフが総合診療科に加わる交流など、病院全体で教育に取り組んでいます。研究面では、臨床研究を支える部門が研究支援（計画、統計解析）をしているため、レジデントの学年研究のみならず、さまざまな研究に対するサポートを得られる体制が整っています。

■ 診療科目

総合診療科 心療内科 循環器科 内分泌・代謝科 血液・腫瘍科 腎臓・リウマチ膠原病科 神経内科
呼吸器科 結核科 感染症科 免疫科 消化器科 アレルギー科 臨床遺伝科 外科 心臓血管外科
泌尿器科 整形外科 形成外科 脳神経外科 眼科 耳鼻いんこう科 皮膚科 小児歯科 矯正歯科
臓器移植科 病理診断科 検査科 診療放射線科 麻酔科 児童・思春期精神科 集中治療科 救命救急科
新生児科 リハビリテーション科 心理・福祉科 在宅診療科 臨床試験科 遺伝子研究科

■ 基幹施設となる診療科（括弧内は連携施設病院）

- ・小児科（広尾/大塚/豊島/荏原/多摩北/立川相互病院/松戸市立総合医療センター/山梨大学連携病院）
- ・精神科（多摩総合/松沢/多摩あおば病院/駒木野病院/鶴が丘ガーデンホスピタル）

■ 連携施設となる診療科（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- ・外科（墨東/多摩総合）
- ・小児科（大塚/墨東）
- ・精神科（豊島/荏原/墨東/多摩総合/松沢）
- ・整形外科（多摩総合）
- ・麻酔科（広尾/大塚/駒込/荏原/墨東/多摩総合/東部）
- ・耳鼻咽喉科（多摩総合）
- ・泌尿器科（駒込）
- ・病理科（多摩総合）
- ・放射線科（駒込）
- ・救急科（墨東/多摩総合）
- ・総合診療（駒込/多摩総合）



（成育、埼玉、千葉の子ども病院との合同勉強会風景）

臨床研修委員会委員長からのひとこと



総合診療科部長
幡谷 浩史

当院は小児専門病院であり、また北米型 ER により 1～3 次救急を担っています。この 2 点が当院における小児科研修の特徴を形作ります。

総合診療科は研修の中核であり、小児科の基礎を学びます。4 万人（2023 年度）の ER 受診症例は、common disease から稀な疾患まで実に多彩です。症例数が多いと言うことは、同じ疾患でも違うバリエーションに出会うことができ、疾患をより深く学ぶことができます。川崎病を例に挙げれば、年 100 症例を超える中には不全型や治療不応症例などが混じってきます。

2 年目を中心に回る専門診療科の研修は、各学会の第一線で活躍する先生方と、専門研修に來ている若手に囲まれ、専門分野について基礎から最先端までの幅広い知識に触れることができます。また、総合診療科に戻ってきたときに学んだことを後輩に教える（屋根瓦方式）ことで、知識を確かなものにするすることができます。

アカデミーで行う 2 年生の研究発表会とともに、1 年生と 3 年生は院内で地方会同様 6 分間の oral presentation の発表会を行います。院長・副院長・コメディカルの代表も参加し、優秀な演題を表彰します。

学年全員で協力し、前向きな臨床研究を行うのも特徴の一つです。Clinical question を持ち寄り、臨床試験科のサポートを受けながら、3 年間掛けて作り上げていきます。

メンター制度、レクチャーのコアカリキュラム化、カンファシステム変更など、みんなで研修の見直し・改善を行ってます。3 年間、楽なことばかりではありませんが、子どもと家族の笑顔のために、一緒に研鑽しませんか？

シニアレジデントからのひとこと①



小児科コース
令和 5 年度修了
藤井 卓也

当院での研修の特徴は、小児科医としての基本的姿勢の研修において体制化された教育システムの下で数多くの症例を経験でき、また研究にも着手しやすいことです。

臨床面は川崎病や気道感染症、尿路感染症などの common disease も多く、一般小児科医で経験する疾患群、症候も十分に網羅しています。救急診療では内因系、外因系を問わず、軽症例から重症例にわたり幅広く経験できます。救命救急科や各専門診療科と協議しながら、各病態へのアプローチを学び、実践していきます。

研究面は日々の臨床を通じて出てくる clinical question を論文化していきます。当院では各人の研究だけでなく入職同期者と協働で、臨床試験科の支援を受けながら前向き研究を 3 年間かけて立案から論文化まで行っています。

教育面は各専門診療科からの指導に加え、レジデント間で個別の症例に対する病態や治療の理解や患者家族への説明や指導などを日々 feedback しながらチーム制で診療を行う、いわゆる屋根瓦式の教育体制です。はじめは初学者として指導を受け、ゆくゆくは指導を実践する、3 年間を通じ多岐にわたる経験ができる研修内容になっています。

以上の 3 点を柱に、各人のニーズに合わせた研修ができます。High volume center ゆえに多忙な時期もありますが、こどもに携わる医師として成長する研修機関選びに当院はいかがでしょうか。

シニアレジデントからのひとこと②



精神科コース
3 年次
秋山 聡香

当院は小児科の総合病院として 1フロアを担い、多摩地域から東京都また近隣の県を中心に児童精神科の外来から入院治療を行っております。現在 5 病棟の運営からなり、児童期から思春期また急性期から慢性期と様々な症例に出会うことができます。外来もトリージ制を設けて受け付けており、はじめは緊急度の低い症例から経験し、徐々に高い症例へと発展していくなど年次ごとにでも出会う症例は幅広いものになります。

指導医の先生方も集まるレジデントも色々な経験を持ち合わせる先生が多く、レジデントは初期研修から小児科経験後や精神科経験後など年次も様々な先生方が集まっています。各々の経験や考えを持ちつつ共有することで、一層の研鑽が詰めるのも魅力的です。コメディカルには看護師はもちろん、PSW、心理師、保育士、栄養士など様々な職種との連携があり、自身を支えてくださるパートナーが大勢います。精神科という幅広い分野でも児童期・学童期・思春期というコアな分野であり、自身の内省が深まる部分では苦しいこともありますが、それを支えてくださる同僚や指導医の先生方、また素晴らしいコメディカルがいらっしゃり、安心して診療を行うことができます。皆様の様々な経験を活かした診療ができる場です。ぜひ児童思春期精神医療にご興味のある先生方、一緒に仲間になってくださることぜひお待ちしております。